

放課後等デイサービス事業所における自己評価結果(公表)

公表:令和3年4月1日

事業所名 わんすてつぷ

		チェック項目	はい	いいえ	工夫している点	課題や改善すべき点を踏まえた改善内容又は改善目標
環境・体制整備	1	利用定員が指導訓練室等スペースとの関係で適切である	7	1	行政の基準よりほぼ倍の施設面積で対応している	可動式のマットを用いて児童の状態に応じた活動エリア分けを行なう
	2	職員の配置数は適切である	8	0	施設内に児童が増える時間帯に非常勤職員を配置している	今後も継続する
	3	事業所の設備等について、バリアフリー化の配慮が適切になされている	7	1	送迎車への乗降に配慮し、踏み台を用意している	前期予算では入り口付近のベンチを改修したが、今期は予算が立てられず現状維持が目標となった
業務改善	4	業務改善を進めるためのPDCAサイクル(目標設定と振り返り)に、広く職員が参画している	8	0	事務所に設置されたファイルにて確認することができる	今後も継続する
	5	保護者等向け評価表を活用する等によりアンケート調査を実施して保護者等の意向等を把握し、業務改善につなげている	8	0	アンケート結果を踏まえて、「いいえ」項目を重点的に改善している	今後も継続する
	6	この自己評価の結果を、事業所の会報やホームページ等で公開している	7	1		SNSで公表を発信するとともに非常勤職員にも伝達する
	7	第三者による外部評価を行い、評価結果を業務改善につなげている	4	4		簡易的な外部評価は行なっているが公表は出来ていない。予算が立てられず保留
	8	職員の資質の向上を行うために、研修の機会を確保している	8	0	動画研修、書籍の設置にて対応	今後も継続する
適切な支援の提供	9	アセスメントを適切に行い、子どもと保護者のニーズや課題を客観的に分析した上で、放課後等デイサービス計画を作成している	8	0	対面で行なってきたが、コロナ対応でリモートでも可能にした	個別支援会議のリモートが認められたため、今後もリモート対応は継続する
	10	子どもの適応行動の状況を把握するために、標準化されたアセスメントツールを使用している	6	2	法人内に共通のアセスメントツールがある	作成まではツール通りに行えているが、日常の中であまり活用できなかったため、意識をむける
	11	活動プログラムの立案をチームで行っている	8	0	日々の会議で話し合っている	今後も継続する
	12	活動プログラムが固定化しないよう工夫している	7	1	固定化しないように意識をもっている	立案担当者を定期的に入れ替えて固定化しないように努める
	13	平日、休日、長期休暇に応じて、課題をきめ細やかに設定して支援している	6	2	長期休暇には外出プランを多めに取り入れている	きめ細やかにと問われたらそうとは言いきれないものもあり、今後意識をしていく
	14	子どもの状況に応じて、個別活動と集団活動を適宜組み合わせ放課後等デイサービス計画を作成している	8	0	支援計画に掲載された課題を簡易表にまとめ日々確認している	今後も継続する
	15	支援開始前には職員間で必ず打合せをし、その日行われる支援の内容や役割分担について確認している	8	0	毎朝1時間程度の時間をとって会議や打ち合わせをしている	今後も継続する
	16	支援終了後には、職員間で必ず打合せをし、その日行われた支援の振り返りを行い、気付いた点等を共有している	7	1	送迎後、退勤時刻までの時間を使って話している	話しの中で職員ごとに支援のばらつきがあり、今後チームで打ち合わせの質を上げていきたい
	17	日々の支援に関して正しく記録をとることを徹底し、支援の検証・改善につなげている	8	0	法人独自の記録紙があり、利用日は必ず記入している	今後も継続する
	18	定期的モニタリングを行い、放課後等デイサービス計画の見直しの必要性を判断している	7	1	年に2回必ず行なっている	非常勤の職員にも周知する
	19	ガイドラインの総則の基本活動を複数組み合わせ支援を行っている	7	1	ガイドラインをいつでも確認できるようにしている	非常勤の職員にも周知する
	20	障害児相談支援事業所のサービス担当者会議にその子どもの状況に精通した最もふさわしい者が参画している	8	0	児発菅だけでなく、相応しい職員が出席している	今後も継続する
	21	学校との情報共有(年間計画・行事予定等の交換、子どもの下校時刻の確認等)、連絡調整(送迎時の対応、トラブル発生時の連絡)を適切に行っている	8	0	メールや送迎時の法人携帯で連携している	今後も継続する
	22	医療的ケアが必要な子どもを受け入れる場合は、子どもの主治医等と連絡体制を整えている	2	5	看護師配置はないが医療行為以外の対応を周知している	医療ケア児童はいないが、てんかん等の発作がある児童に対する対応は保護者と確認している。今後もおこなう

関係機関や保護者との連携	23	就学前に利用していた保育所や幼稚園、認定こども園、児童発達支援事業所等との間で情報共有と相互理解に努めている	5	3	公立の療育園とは電話などで情報共有をしている	公立療育園以外の施設とはよほどのことがないかと連絡をしていないが連携を意識するように心掛ける
	24	学校を卒業し、放課後等デイサービス事業所から障害福祉サービス事業所等へ移行する場合、それまでの支援内容等の情報を提供する等している	8	0	直接会う機会がない場合もあるが相談支援員を通して情報の共有ができていると思う。	今後も継続する
	25	児童発達支援センターや発達障害者支援センター等の専門機関と連携し、助言や研修を受けている	7	1	児童発達支援センターと連携し、不明点を確認している。施設では動画研修を導入している。	今後も継続する
	26	放課後児童クラブや児童館との交流や、障がいのない子どもと活動する機会がある	3	5		今年度も交流予定はない
	27	(地域自立支援)協議会等へ積極的に参加している	0	8		今後参加をする機会があれば検討する
	28	日頃から子どもの状況を保護者と伝え合い、子どもの発達の状況や課題について共通理解を持っている	8	0	送り時や連絡帳、メールにて共通理解を深めている	今後も継続する
	29	保護者の対応力の向上を図る観点から、保護者に対してペアレント・トレーニング等の支援を行っている	5	3	ペアトレはしていないが事業所内相談や日頃保護者へのサポートを行っている。トレーナー研修修了者を増やしている。	ペアトレの開催を目指す
	保護者への説明責任等	30	運営規程、支援の内容、利用者負担等について丁寧な説明を行っている	8	0	
31		保護者からの子育ての悩み等に対する相談に適切に応じ、必要な助言と支援を行っている	8	0		
32		父母の会の活動を支援したり、保護者会等を開催する等により、保護者同士の連携を支援している	8	0		
33		子どもや保護者からの苦情について、対応の体制を整備するとともに、子どもや保護者に周知し、苦情があった場合に迅速かつ適切に対応している	8	0		
34		定期的に会報等を発行し、活動概要や行事予定、連絡体制等の情報を子どもや保護者に対して発信している	7	1	ブログで発信している。公式lineのタイムラインを活用している。	非常勤の職員にも周知する
35		個人情報に十分注意している	8	0		
36		障がいのある子どもや保護者との意思の疎通や情報伝達のための配慮をしている	8	0	保護者や家庭の状況に合わせて連絡方法を考えている。	今後も継続する
37		事業所の行事に地域住民を招待する等地域に開かれた事業運営を図っている	0	8		今年度も予定はない
非常時等の対応	38	緊急時対応マニュアル、防犯マニュアル、感染症対応マニュアルを策定し、職員や保護者に周知している	8	0		今後も継続する
	39	非常災害の発生に備え、定期的に避難、救出その他必要な訓練を行っている	7	1		訓練後の入社で、まだ参加していない職員が参加できるように工夫する
	40	虐待を防止するため、職員の研修機会を確保する等、適切な対応をしている	8	0		今後も継続する
	41	どのような場合にやむを得ず身体拘束を行うかについて、組織的に決定し、子どもや保護者に事前に十分に説明し了解を得た上で、放課後等デイサービス計画に記載している	6	2		非常勤の職員にも周知する
	42	食物アレルギーのある子どもについて、医師の指示書に基づく対応がされている	6	2	保護者に確認して対応している。	今後も継続する
	43	ヒヤリハット事例集を作成して事業所内で共有している	8	0		今後も継続する